

2022

6

June
No. 352

広報みしま

福島県
大沼郡
三島町



三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

Mishima Town Public Relations



新緑に包まれる三島町

長い冬を乗り越え、ここ三島町にも新緑に包まれる季節がやってきました。山々は、春の訪れとともに息を吹き返し、木々が一斉に芽吹き、みずみずしくまぶしい程に葉を茂らせています。三島町の木である「桐」の花も町内各地で咲き誇る中、3年ぶりに「桐の里ウォーク 2022」が開催されました（特集 P16）。

主 な 内 容

まちの話題	2～6
町民記者通信	7～8
空き家コラム	8
地域・団体からの情報提供	9
など	

有限会社 会津地鶏みしまや

農場 HACCP 認証を取得

三島町内で三島町産会津地鶏の生産を手掛ける「有限会社会津地鶏みしまや（以下「同社」）」が、令和4年4月27日に福島県内の肉用鶏農場としては初となる農場 HACCP（ハサップ）認証を取得しました。

同社は、平成22年から認証取得に向けて取り組みを開始しました。

農場 HACCP 認証取得には、平成21年に農林水産省が定めた「畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準（農場 HACCP 認証基準）」を満たし、第三者機関の審査が必要です。

審査では、生産から出荷工程までの徹底した衛生管理が求められるとともに、高度な知識も必要となるため、肉用鶏農場として取得しているのは、同社を含め全国で14農場（令和4年4月27日時点）のみです。



（有）会津地鶏みしまや
代表取締役 小平和広さん（西方）

小平和広社長は、「社員をはじめ、支援をしてくださった関係者皆様のおかげで認証取得までたどり着けた。これからも衛生管理を徹底し安心・安全で美味しい三島町産会津地鶏を提供していけるよう励んでいきたい。」と話していました。



農場 HACCP とは、家畜を飼育するに当たり HACCP の考え方を取り入れ、飼養段階で危害要因を分析・管理することにより、安全な畜産物を生産するための手法です。

Hazard	危害	危害要因（微生物、化学物質など）を事前に予測・分析する。
Analysis	分析	
Critical	重要	危害要因を防止するための重要管理点を、継続的に監視・記録することで食の安全性を確保する。
Control	管理	
Point	点	

【HACCP（ハサップ）】とは：



三島小学校大運動会

5月21日に三島小学校大運動会が開催されました。子ども達の元気いっぱいの声と応援に訪れた皆さんの声援が校庭いっぱいに響き渡り、笑顔あふれる1日となりました。



最高のお米を天皇に献上

小松さんは「思いがけない榮譽に浴し、身に余る光栄です。田を続けることができたのは、地域の皆様の毎年の協力と農業仲間の支えがあったからだ」と痛感していま

は、初めてです。三島町から初めての献穀者に選ばれ、今年是小松さんと郡山市の方が献穀者となりました。三島町から献穀者選ばれたのは、初めてです。

5月30日に御田植祭

朝から晴天に恵まれた5月30日に御田植祭が厳かに行われ、小松さんの献穀田の前で神事が執り行われました。

水田に入り、福島県オリジナルブランド米の「天のつづ」の苗を丁寧に植えました。約19aの献穀田の一部に手植えされた苗は春の穏やかな日差しを浴び鮮やかな緑色に輝いていました。



関係者の皆さんと記念撮影

す。今後は、献穀田の管理に細心の注意を払い、丹精込めて栽培してまいります。」とあいさつを述べました。

矢澤町長は「今般、献穀者を選任された小松正信さんの榮譽を心からお祝い申し上げます。心身のご精進を賜り、豊穰の秋にはめでたく献穀の重任を果たされ、本町農業者の模範となられますようお願い申し上げます。」と述べました。

献穀米は、9月下旬に収穫され、10月下旬頃に皇居で行われる献穀献納式において、小松さんご夫妻が、5合の米を献上される予定です。

献穀

献穀は、宮中の恒例行事の中で最も重要な儀式である「新嘗祭」に供するための新穀を各都道府県の精農家が献納するものであり、明治25年以来、今日まで続いている伝統的な行事です。

新嘗祭

毎年11月23日に行われる祭儀で、天皇陛下が、神嘉殿において新穀を皇祖はじめ神々にお供えになり、神恩を感謝された後、陛下自らもお召し上がりになる祭典です。宮中恒例祭典の中の最も重要なものです。天皇陛下自らもご栽培になった新穀もお供えになります。

令和4年度 にいなめさいけんこくでんおたうえさい 新嘗祭献穀田御田植祭

三島町で初の献穀者「小松正信さん（西方）」



毎年11月に皇居で行われる新嘗祭で天皇に献上するための献穀米を栽培するための献穀者に西方地区の小松正信さんが選ばれました。

小松正信氏は、昭和44年に就農し、西方地区を中心に水稲を主とした農業を営み、地域農業の担い手として積極的に農地を集約し、現在では本町の水田作付面積の3割にあたる12haを作付けてしています。さらには西方農事生産組合長、西方集落営農組合長、西方集落協定代表を歴任しており、地域農業の振興に積極的に取り組んでいます。本町において、基幹産業である農業経営を確立し、良好な農村環境を維持して中山間地域の有する多面的機能の発揮に大きく貢献しています。



小松正信さんと妻の万樹子さん

古峯講（4月28日）

佐久間 絹江（滝原）

滝原地区の背後で山の中腹から見守るように古峯様の祠が祀られています。向かって右手の道は美坂山への登山道に通じ、左手の道は駒形神社前広場に通じる下山道です。区長の待つ祠の前で、御神酒を頂き地区内の火伏や五穀豊穡、家内安全をお祈りしました。

高齢化により、また都合で山に参拝できない方は、集会所内で参拝、ご祈願しました。

ボランティア「こぶしの会」総会及び国道沿いゴミ収集（4月29日）

佐久間 絹江（滝原）

総会の資料に則り、令和3年度の反省を行い、令和4年度行事と予算案が決議されました。役員改選も行われ、新しい役員のもと新年度がスタートしました。今年度も、会員の親睦を深め、地区内の美化活動を中心に行っていきたいということで、総会終了後に二手に分かれ、宮下地区寄りのスノーシェッドから、滝原・早戸地区のスノーシェッドまで車に気をつけながらゴミ収集を行いました。

未だコロナが収まらない現実を踏まえ、昨年同様に昼食会はお弁当を持ち帰りました。



「コロナ収束願い」太神楽が舞う（5月5日）

本名 与四郎（西方）

毎年、安産や子どもの健やかな成長を願い、町内外から多くの参拝客が訪れ、お札やお守りを買求める「鬼子母神例大祭」はコロナ禍中のために、中止となってしまいました。

西方区長の青木喜章さんをはじめとする、9名の地区委員が数回にわたる協議の末、鬼子母神祭は行われませんが、コロナ収束を願って、太神楽を招聘しようとする気運が高まり、5月5日の子どもの日に実施することになりました。

当日、恒例の場所となっているふるさとセンター前にいて、防災無線による呼びかけの効果もあり、太鼓や笛の音に合わせた軽快な神楽を見たり聞きたいために50名以上の大勢の地区住民などが参集し、心地よいリズムと踊りを楽しんでいました。



道普請（5月8日）

佐久間 絹江（滝原）

各戸代表13名の方々が参集し、冬期間の雪の影響を受けた倒木等で荒れた地区内の林道や農道を整備しました。高齢のため参加できない方は、近くに住む家族の方が都合をつけて参加協力してくださり、公共の道は歩きやすくなりました。

作業終了後は短い時間でしたが、親睦を兼ねて慰労会を行いました。



無火災365日を達成

会津坂下消防署三島出張所を表彰

三島町内の無火災記録が365日に達し、会津坂下消防署三島出張所が会津若松広域市町村圏整備組合消防長より表彰されました。

5月12日に佐藤宏会津坂下消防署長と青柳誠三島出張所長が役場を訪れ、矢澤町長と小島純消防団長に受賞の報告をしました。青柳三島出張所長は「三島町民、消防団の皆さまの努力の結果だと思います。引き続き予防消防に努めて参ります。」と述べました。



▲ 表彰を受けた青柳三島出張所長（左から2人目）

台湾市政府が本を寄贈

水がめぐる平野の物語「1930 台湾鳥山頭」

台湾と三島町の交流の一環として、台湾市政府より市政府が発刊した八田のものがたりの本「1930 台湾鳥山頭」を公民館と三島中学校に1冊ずつ寄贈いただきました。

1930年に日本人水利技師の八田興一氏が設計したダムにより、台湾の穀倉地帯、嘉南平野が不毛の地から豊かな大地へと生まれ変わることができた物語です。町民センターゆめぼけつとでご覧いただくことができます。



▲ 寄贈いただいた本

おもてなしで賑わった宮下駅前

駅前マルシェ in 三島町を開催

特別列車「風っこ 只見線ナイトトレイン」の運行に併せて、会津宮下駅前で「駅前マルシェ in 三島町」が開催されました。駅前マルシェでは、会津地鶏の焼き鳥等が販売され、美味しそうな匂いに誘われた乗客の皆さんで行列ができ、その他にも奥会津五町村の特産品などが販売され会場はにぎわいました。

帰りの運行に併せて、三島小学校前の菜の花畑のライトアップも行われ、夕暮れ時というのもあり、一面が暖かい光に包まれていました。通過時には、乗客の皆さんに手を振ってお見送りしました。



美しい地区へ、道路清掃と花植え ～大石田清流八年会活動～

大石田清流八年会 会長 渡部繁信

ボランティアグループ「大石田清流会八年会」では、5月13日に、恒例となっている地区人口付近の町道の清掃活動と、昨年に続き「三島町美しい村づくり町民運動」の助成を受け、地区集会所周辺に花植えを行いました。

道路清掃では、しぶとい雑草の除去と掃き掃除し、側に立つお地藏様が、なぜか微笑んでいるように見えました。頭をペコリ、地区の穏やかな暮らしを願いました。

花植えは、集会所向かいの高台の花壇とプランターには、サルビア、マリーゴールド、ベゴニアの花を植えました。高台の花は新緑の中に色を加え、プランターの花は集会所の玄関を明るく飾ってくれました。願いは、見てくれる人に優しい気持ちが届くように、と。

本会は平成8年に結成されたことで「大石田清流八年会」と命名され、26年目を迎えました、どこの団体も、社会的要因から会員数の減少が心配されます。本会も昨年、多くの会員の退会があり7名での活動となりました。今年度の総会では、解散の選択肢もありましたが、できる範囲での活動を続けようとなりました。

いつでも会員募集中です。入会制限はありません。大層な目的ではなく、ささやかな活動を通じた地域の輪、仲間づくりを大切にしていきたいと考えています。



春の人足で村道がスッキリ！（5月7日）

本名 与四郎（西方）

西方地区の春の人足が、午前8時より正午近くまで行われました。当日は天候にも恵まれ、14組の隣組はそれぞれ決められている人足箇所の活動に汗を流しました。隣組によっては、出役人数が少なく、隣組同士が協力し合う場面も見られました。今後、ますます高齢化が進み人足を行うことが危ぶまれます。

休憩中には、小松正信さんが献穀米を献上することに推薦され、今月の30日（月）の午後2時よりお田植えの神事が予定されている話や西方の簡易水道ができるまで、岩倉山から湧き出る伏流水を飲料水にしたこと、山の中腹まで畑や田んぼを作っていた話など思い出深い話を聞くことができました。村中人足を通して、地区の方々の絆や交流の大切さを感じた半日となりました。



会津坂下警察署からのお知らせ

管内で当選金名目の詐欺が発生!!

本年5月に、会津坂下警察署管内で、高額当選金の保証金などの名目で電子マネーを購入させた上で、電子マネーを利用するために必要な番号をメールで送らせるという詐欺被害が発生しました。

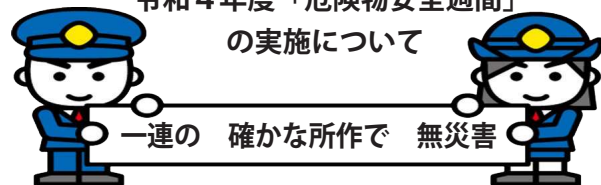
電話やメール、SNSのメッセージ機能で「高額当選金が当たりました」というような内容が届いた場合には、詐欺を疑い、家族や警察に相談しよう。



☎会津坂下警察署警務係 ☎ 0242 (83) 3451

消防署からのお知らせ

令和4年度「危険物安全週間」の実施について



一連の 確かな所作で 無災害

【期 間】 令和4年6月5日④～6月11日⑤
までの7日間

危険物とは・・・①火災発生の危険性が大きいもの
②火災拡大の危険性が大きいもの
③消火の困難性が高いもの

ガソリン、灯油、軽油などの危険物を正しく保管・取扱いし事故を未然に防ぎましょう！

まだ暑さに身体が慣れていないこの季節は熱中症に注意しましょう！めまい、吐き気、頭痛、筋肉の痙攣は熱中症の症状です！

症状が現れたら、ためらわず救急車を呼んでください！こまめな水分補給や涼しい場所での作業を心がけ熱中症対策に努めましょう！



☎会津坂下消防署 三島出張所
☎ (52) 3032 / FAX (52) 3033

所有者よし・入居者よし・地域よしの三方よしで三島よしを目指して



空き家コラム
老朽化
の壁

老朽化

賞味期限

=



今回は3月に受けた研修で学んだ「**空き家には賞味期限がある**」ということについてお伝えします。

空き家の賞味期限とは、『**老朽化**』です。そして、空き家の老朽化は思った以上に早く、早ければ1年で傷むと言われています。

では、どこが傷むのかというと、**水回り**です。昭和50年以前の配管には亜鉛メッキ鋼＝鉄が使われていることが多く、配管が錆びやすくなっています。管の錆がボイラーに回るとボイラーの故障につながります。ボイラーを含む修繕には100万円以上の費用がかかるため、いざ空き家を利活用しようと思った場合に、その修繕費用ゆえに、利活用のハードルが上がってしまいます。

空き家入居希望者は、まず住んでみて後々必要な改修を行いたいと考える傾向にあり、水回りの改修をしないと住めない状態というのは、空き家利活用の流通に乗りにくい現実にあります。

空き家になった後もきちんと管理されていた場合は、その限りではないと思いますが、空き家は**待ったなしで老朽化**していくことを念頭に置いていただき、きちんと管理するか、早めの対応をお願いします。



◆ 空き家に関して、お気軽にお問い合わせください ◆
地域政策課 地域政策係 ☎ (48) 5533

4月に町の空き家対策に関するお知らせを空き家所有者に郵送したり、固定資産税納税通知書に同封したことで、多くの空き家所有者の方からお問い合わせをいただき、中には利活用や解体に向けて動き出す方がいたのは何よりと感じています。

6月26日(日)、27日(月)、 28日(火)は総合健診です！

vol.68
健康で元気な毎日！
町民課保健福祉係 ☎48-5565

三島町の総合健診では以下の健診が受けられます

- ★特定健診（40歳から74歳の方）★後期高齢者健診（75歳以上の方）
- ★若年健診（18歳から39歳の方）★がん検診（40歳以上の方）



Q 特定健診って何？

A 特定健診とは生活習慣病の予防のために、対象者（40歳から74歳）の方にメタボリックシンドロームに着目した健診です。（出典：厚生労働省ホームページ「特定健診・特定保健指導」）

Q どうして健診は受けないといけないの？

A 日本人の死因の約5割は生活習慣病です。生活習慣病を早期に発見し治療するために特定健診やがん検診の受診が必要です。

Q 健診を受けた後はどうしたらいいの？

A 健診後1か月程度で結果がでます。今年は8月上旬から中旬にかけて、健診結果説明会を各地区で実施し皆さんにお渡しする予定です。
その後、生活習慣病のリスクが高い方には順次保健師、栄養士、看護師がご自宅に訪問します。生活習慣の改善や運動、食事の摂り方、受診の目安など一人ひとりに合わせたアドバイスをしていきます。

図書のご案内

町民センターゆめぼけっと

- 利用時間
月～金 午前9時～午後9時
土・日・祝 午前9時～午後5時
- お休み
年末年始

☎ 公民館 ☎ (48) 5599

●今月のおすすめ



おしえてブッダせんせい
こころのふしぎ 著：宮下 真

子どもたちが日常の生活で抱く疑問や悩みを、仏教の考え方をベースにブッダさんが答える絵本。見開き完結のQ & A形式なので、どのページからでも読めて、気軽に仏教の教えに親しむことができる子供向けの解説の他、大人向けのアドバイスも掲載。

●図書の紹介



いいから
いいから

著：長谷川 義史



FACT (ファクト)
FULNESS (フルネス)

著：ハンス・
ロスリング 他



はたらく細胞
①～⑥巻

著：清水 茜

地域おこし協力隊 活動誌

暮らしのゼロカーボン宣言
山本 敬晴

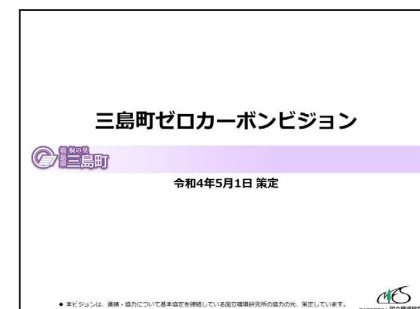
桐の花が咲き、段々と夏を感じてきている今日この頃です。各地で山開きが行われ、色々な花が咲くとともに登山者の数も増え、冬の静けさから一転してにぎやかで活気づく夏山も良いものです。

さて、今年の5月1日に町の2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「三島町ゼロカーボンビジョン」が策定されました。私も再生可能エネルギーの導入事業や森林の利活用事業にも係わることから国立環境研究所さんと共に策定に携わりましたが、実は、これまで省エネ活動らしいことをほとんど取り組んできませんでした。むしろ、20代の頃は、洋服をトレンドに合わせて毎年一新し履きもしないスニーカーを買い集める等、エコとは無縁の生活

をしていたし、今でもトイレや部屋の電気をしばしば消し忘れるし…だから正直に言っても、皆さんに「エコ活動してください!!」って言える立場ではないのです。

ですが、携わったからには、やはり自分自身の生活を変える必要がある！ということ、わたくし山本は、ビジョンにも載せている「ゼロカーボンアクション30」を自身で実践することとをここに宣言します！

ちなみにですが、現在、エネルギー価格をはじめ、物価の上昇傾向が続いています。家計の節約だと思つて、皆さんにも少しづつ省エネ活動に取り組んでいただけると幸いです。



▲三島町ゼロカーボンビジョンの冊子
町HPからご覧になれます。

工芸館だより⑬ くものづくりの伝承

町民アカデミー講座の様子

5月 食卓で使おう手彫りスプーン

糸鋸やスクレーパーを使って、削りだしていきます。最初は動きがぎこちなかった方も次第にきれいな木くずを出しながら成形をされていました。最後に汚れをつきづらくするための仕上げとして桐の里産業さんのえごま油を使用しました。同じ形の材料からスタートしていますが、みなさんそれぞれのカタチが仕上がりました。



すっかり春となり、クルミの皮の材料採取の時期が（5月初旬頃）あつという間にきて、去つていきました。葉っぱが出はじめた頃を目安にすると皮がよくむけるようです。詳しくは、先月の工芸館だよりで紹介しました「技術継承記録集」にも記事がありますので、ぜひ工人の館でご覧ください。

4月 新しいカタチに挑戦！ 山ブドウ・クルミストラップ（球）

新しいカタチに挑戦ということで、球を目指して山ブドウとクルミの皮の2種類の材料を使って制作しました。なかなか理想通りにならず、「もっと練習したい」や「クルミなら自分でも採取をしてやってみようかな」という声が聞かれ、あつという間の2時間でした。



町民アカデミー講座のご案内

次回の町民アカデミー講座は7月23日④「手びねりでつくる陶器」です。ぜひお申込みてください。

☎三島町生活工芸館 ☎ (48) 5502

今もご記憶にある方が多くいらつしゃいますが、昭和三十一年（一九五八）の三島村（当時）における大水害について、町役場に遺（遺）っていた資料から紹介します。

昭和三十一年七月十六日午後十一時より十七日午前三時まで以降った豪雨は、人畜・家屋・農作物・道路等に甚大なる被害を与えました。役場日誌では災害原因として十三日夕刻から降り出した雨が十四日、十五日と降り続き、十六日に豪雨となったことを挙げています。

豪雨により電信電話が不通、電灯も消え、十六日夜には各地区で炊き出しや災害予防の応急的な対策が行われています。明けて十七日、役場では水害緊急対策本部を設け、午後一時に緊急の村議会を召集、職員が災害状況報告に両沼財務事務所出張しています。十八日以降は村民による応急の復旧工事のほか、議員や職員が被害調査を開始し、数日後には県から被害状況の照会や現地確認調査の職員が来村するようになります。二十一日に日本赤十字から衣

料や食料などの救援物資が届いたことをはじまりに、以降もいくつかの機関から救援物資が被災者に配給されています。また時期は不明ですが、三島村役場・会津坂下保健所の連名で水害後の衛生対策（伝染病防止）について村民に向けて具体的な方法を指示しています。

被害の規模は七月三十一日付の「水害被災調査」（表1）や八月八日付の福島県知事大竹作摩氏に宛てた「災害救助願進達書」（表2）からうかがえます。前者は被害額報告のあと「つなぎ融資」として五百万円を両沼財務事務所長宛に願い出ています。各地区の状況をみると、滝谷が被害甚大で、「住家」の全壊三、半壊四、床上浸水五十八、「非住家」の半壊七、流失二、床上浸水八とあります（豪雨出水による家屋被害一覧表）。

また被害は十六・十七日以降もあり、役場日誌によると二十日にも大雨が降り川井地内の県道に流失の可能性が生じ消防団員がポンプ持参で出動、八月四日も大雨で荒屋敷にお

いて床上浸水、大石田の林道修繕箇所が全部決壊、宮下柳津間の県道が一時不通になるなど、この年の七月・八月は水害が何度も発生していたことがわかります。

豪雨による被害は三島村だけでなくどまらず会津では「会津地方水害対策連合会」を結成、復興事務所役割を果たすことになりました。この会は各自治体の初期の目的の達成、そして特別交付税の増額が決定したことで、翌三十二年三月に解散しています。

（三島町史編さん室）

表1 大水害の種別被害額

種別	被害額 (千円)	摘要
水田	88,988	収穫物並に復旧費（流失、埋没等）
畑	67,570	同
家屋	15,572	倒壊、流失、半壊、床上、床下被害
村道	5,700	橋梁流失、道路決壊其の他復旧費
林道	11,400	同
用水路	12,500	決壊、流水其の他復旧費
宅地	180	決壊、流失等の復旧費
農道	8,400	決壊、流失、地這等復旧費
簡易水道	500	山崩、流失等の復旧費
堤塘	300	復旧費
山林原野	14,000	山崩、地這並に立木の損失
其の他	4,930	製炭竈、家財道具、其の他人夫賃、応急資材等
木材	5,290	杉材、栗材、桐材等の流失
計	235,330	

7月31日付の「水害被災調査」より

表2 三島村における被害地区、戸数、人員等

災害地域の地区名	滝谷、桧原、川井、荒屋敷、西方、滝原、早戸、名入、大石田、清水	
災害地域の総戸数	1,161	戸
被災戸数（世帯）	148	戸（世帯）
被災人員	891	人
非住家非該棟数	51	棟

8月8日付の「災害救助願進達書」より

環境研だより 第47回 三島町地域循環共生圏推進協議会総会 とゼロカーボン宣言



三島町のみなさま、こんにちは。今回は5月26日に開催された三島町地域循環共生圏推進協議会総会（以下、協議会総会）と、その後に行われたゼロカーボン宣言についてご紹介いたします。

協議会総会は、本来は2021年度内に予定していたのですが、コロナ禍の影響で年度を跨いだ開催となりました。まず矢澤町長からの会長挨拶の後、5月1日付で「三島町ゼロカーボンビジョン」が策定されたことが報告され、合わせて国環研福島地域協働研究拠点の木村拠点長からも挨拶がありました。



三島町地域循環共生圏推進協議会の様子

議事は①令和3年度の活動報告、②木質バイオマスエネルギー事業の検討状況、③今後の進め方、の大きく3つで、①では、森林活用、資源供給、再エネ利活用の3分野において、森林活用委員会を開催して各地区の皆さまと意見交換を実施したこと、生活工芸館の壁材の改修に町産材を活用したこと、木質バイオマスによる小型発電設備について検討を行い、先進地への視察を行ったことなどが報告されました。②では、先進地視察の結果、当初想定していた木質チップによる熱電併給設備に課題が多いことが分かったため、更新時期が迫っている町内公共施設の熱源設備を対象に、薪や木質チップによる熱供給への切り替えを検討していくことが示されました。③では、各地区との意見交換を通

じて地区ごとの事業を検討すること、町内公共施設での町産材利用のモデル事業を検討すること、生活工芸館の薪ボイラーの評価を行うこと、熱供給事業の可能性調査を行うことなどが報告されました。

協議会総会の終了後には「三島町2050ゼロカーボン宣言」が行われました。これは、皆さまにもパブコメ等でご覧いただいた三島町ゼロカーボンビジョンをもとに、森林を活かしながら環境と調和した町づくりを目指す三島町の取組を対外的にも広くPRするものです。



宣言書を手にする矢澤町長（右）と木村拠点長（左）

今後はビジョンの具体化に向けた検討が始まりますが、これらの検討が町民の皆さまの暮らしがより便利で豊かなものに繋がるよう、私たちも引き続き研究面からのお手伝いさせていただきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

〈筆者〉常盤 達彦（ときわ たつひこ）

福島拠点では研究の成果を発信するコンテンツとして立体地図に画像を投影する「3Dふくしま」を制作・展示しています。6月15日まで3Dふくしまに関するクラウドファンディングにも挑戦していますのご興味のある方はぜひ！
<https://outreach.bluebacks.jp/project/home/25>

☎国立環境研究所福島地域協働研究拠点
地域環境創生研究室 ☎0247（61）6572

県立宮下病院より

愛ばんしょ外来からのお知らせ

三島町ケーブルテレビ 三島
通信で健康教室を放送中
です。6月のテーマは「軟膏の
塗り方」です。ぜひご覧だ
さい。



☎福島県立宮下病院 ☎ (52) 2321

町からのお知らせ

ご寄附ありがとうございました(4月分)

ふるさと納税

沢津橋 美代子 様(茨城県)
他6件
計 115,000円

6月分納税のご案内

【納期限 6月30日(木)】

▼町県民税(普通徴収)(第1期)

忘れずに納付ください。

☎町民課 町民係 ☎ (48) 5555

お悔み申し上げます

長谷川 サツキ 様(91才・川井)
栗田 路子 様(77才・宮下)
二瓶 一義 様(91才・間方)
近藤 勇吾 様(91才・宮下)

町の人口と世帯(5月1日現在)

人口	1,457	増減数	2	出生	0
男	731		2	死亡	3
女	726		0	転入	9
世帯	716		4	転出	4

※住民基本台帳による数値です。増減数は前
月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1
カ月間に届出のあった人数です。

社会福祉協議会より

大石田友遊サロン

6月6日(月)
午前10時から
大石田集会所

サロンなごみ

6月8日(水)
午前10時から
西方ふるさとセンター

桧原はつつクラブ

6月10日(金)
午前10時から
桧原集会所

ひまわりサロン

6月13日(月)
午前10時から
町民センター

高清水・小山いきい
きサロン

6月14日(火)
午前10時から
高清水集会所

大登サロン

6月14日(火)
午後1時30分から
大登生活改善センター

川井友愛サロン

6月15日(水)
午前9時から
町営グラウンド

間方いきいきクラブ

6月17日(金)
午前10時から
間方集会所

滝谷和楽塾

6月23日(木)
午前10時から
滝谷集会所

サロンないり

6月24日(金)
午前10時から
名入集会所

ほがらかサロン

6月25日(土)
午前10時から
森の校舎カタクリ

※新型コロナウイルス
の感染状況により中止
する場合もございます
ので、ご了承ください。

◆社協会長杯グラウンドゴルフ大会◆

6月29日(水) 町営グラウンド
午前8時30分集合/午前9時 競技開始

町社会福祉協議会へのご寄附
(ご遺志によるもの)

長谷川 賢之 様(川井)
栗田 寛 様(宮下)
二瓶 義徳 様(間方)
近藤 勇彦 様(宮下)

☎社会福祉協議会 ☎ (52) 3344

東北電力からのおねがい

発電所やダムから水を流したときの水難事故を防ぐため、各所に注意札を立てております。水を流
すときは、スピーカーやサイレンによってお知らせしますので河原にいる人は危険ですので、すぐ安
全な場所へ移動されますようお願いいたします。

次のときにスピーカーをならします

①ダムから初めて水を流す約10分前
②発電所から初めて水を流す約10分前
③発電所の出力を増やし水を多く流すとき
(放送内容)
「今から川の水が急に増えます。河原にいる
人は危険ですから、すぐ上がってください。」
※毎日9時にスピーカーの音を実際に鳴らし
て、装置の点検を行っております。

次のときはサイレンをならします

①ダムの流量が毎秒1,000m³に達したとき
②ダムの流量が毎秒2,000m³(洪水量)に達したとき
③ダムの流量が洪水量オーバー後毎秒1,000m³増加毎
(警報内容)
サイレン 10秒 サイレン 10秒 サイレン
■■■■ 休み ■■■■ 休み ■■■■
50秒 50秒 50秒

《河川への不法投棄はやめましょう!!》

〈問い合わせ〉東北電力株式会社 水力運用センター(☎0242-26-6862)

只見川ダム管理所(☎0241-52-3422)

阿賀野川水系ダムの状況を当社HPから閲覧出来ます。

東北電力HP — 発電・環境・エネルギー — 阿賀野川水系ダム情報

スマートフォンアプリ

より、そう、ちから。
東北電力ネットワーク

停電情報

自宅や職場、実家などで登
録地区の停電・復旧情報を
プッシュ通知で受け取るこ
とができます。



登録地域は最大10地域まで
自宅や職場、実家などで二
重に合わせた登録が可能で
す。



Google Play
で手に入れよう



App Store
からダウンロード



東北電力ネットワーク株式会社 会津若松電力センター

桐の里2022 ウォーク

3年ぶりとなる「桐の里ウォーク2022」が5月29日に福島県在住者300人限定で開催されました。

当日は、爽やかな日差しのもと、交流センター山びこをスタートし、町内約8kmのコースを歩き、三島町の景色を堪能しました。

ゴール後は、会津地鶏をつかった三島特産汁などが振舞われ、参加者の皆さんは、心と体を満たして有意義なひとときを過ごしていました。



町長日記

～人口減少時代の地域づくりは～

No. 80

日本全体が人口減少する中、人口増の市町村がある一方で、人口が流出している市町村が多く存在するという現実があります。日本の人口は、現在の1億2千万人から、2050年には1億人をきり、2100年には8千万人以下になるであろうと言われる中であって、将来の過疎地域の市町村の姿を描くには「成長と価値」という従来の視点からの発想では、持続可能な地域を創ることはできないのではないかと考えます。

時代の環境変化、気候変動対策、情報化、分断、再生などの社会情勢への対応を考え、構想する能力や戦略の立案、そして運営する能力をマネジメントし、人口減少という現実を考えると気の遠くなる作業です。しかし、困難に挑戦するからこそ、時代を革新するという強い意志を持つことを町村には求められています。

ある市長が話した「合意形成から生まれてきたもので活性化するのであれば、とっくの昔に活性化している。全員に『利』があつて『害』がないものなら、行政が

関わらずとも民間でとっくに行われているはずですから、そうでない以上、必ず利害の対立は起こるので、スタートから合意形成できるというのはない」という言葉が印象に残っています。

高度経済成長期では、国全体が人口増により、一部の地域において人口減少がみられるものの経済拡大による税収も増えて、分配の法則、地方交付税や補助金そして過疎債等が過疎地域等にたくさんお金が流れました。今後は人口減少により経済の規模が縮小し、地方に流れるお金が小さくなることが予想され、非常に困難な時代になると考えています。

過疎地域が生き延びる対応策を考えていく必要があります。それは日本全体の発想の転換であります。持続可能な地域づくり発想は、教育や環境・医療・介護・自然・再生そして地域のコミュニティの形成であるような気がしています。成長や幸福の価値の転換が、日本や世界の場合であると考えます。

三島町長 矢澤 源成